

平成 30 年度 第 2 回

おおさか環境ネットワーク会議議事録

日 時：平成 30 年 7 月 11 日（水） 18：30～20：10

場 所：大阪市環境局第 2 会議室 あべのルシアス 12 階

出席者：NPO 法人 リアルにブルーアースおおさか 武田氏

NPO 法人 日本ベジタリアン協会 関目氏 橋本氏

一般社団法人環境事業協会 正垣氏 阪本氏

NPO 法人 木育ファーラム 米地氏

大阪府シェアリングネイチャー協会 福島氏

なにわエコクラブ 高橋氏

NPO 法人環境情報ステーション pico 大林氏

ファシリテーター：World Seed 岡見氏

事務局：井上

環境局 片岡

プログラム

1. おおさか環境ネットワーク会議の目的について（環境局より説明）

さまざまな環境保全活動を行う主体が集まり交流することで、協働して取組む新しい活動が生まれ、それぞれの活動が活性化することを目的とする。

また、第 5 次環境基本計画及び環境教育等促進法基本方針にもあるように、日常に近い場所や地域の中で環境学習や実践活動の場・機会が、多様な形で存在していることが必要であり、ひとりひとりが、暮らしや身近な自然、地域等を通じて課題を見だし、自分ごととして実行し、学びを繰り返すことが重要とされている。おおさか環境ネットワークは、それぞれの団体様が行っている活動内容を多くの方に知ってもらい、活動の活性化の場として使っていただきたい、また、交流の場として使っていただきたいと同時に、市民のみなさんの日常である市内を活動拠点とする皆さんに、地域の環境活動の実践者、指導者として一人でも多くの方に環境保全活動を広げていただきたいと考えてこの事業を進めている。

<意見交換>

（意見）いままで、交流や協働というキーワードを用い活動しながら、なぜ協働したものができてこないのか、何が問題なのか。参加団体が減っているのは、魅力がないからだろう。何を魅力としてこのネットワークを PR していくのか、考えたほうがいいように思う。

→（事務局）大阪市と一緒にしている、と言えるのは確かにメリットと思うが、それが伝わらないのはなぜか。

（意見）なにわ ECO 会議との違いについても前回質問があったが判然とはしていない。

→（事務局）なにわエコ会議について説明。

(意見) 説明を聞くと、このネットワークはエコ会議に比べ、独自性を大事にしながらつなされる、フットワークの軽い会、と理解した。

大阪市がやりたいと思っていること（それぞれの団体様が行っている活動内容を多くの方に知ってもらい、活動の活性化の場として使っていただきたい、また、交流の場として使っていただきたいと同時に、市民のみなさんの日常である市内を活動拠点とする皆さんに、地域の環境活動の実践者、指導者として一人でも多くの方に環境保全活動を広げていただきたい）に賛同し、それを一緒にできる、ということがこの団体のメリットではないか。

2. 現在募集中の地域からの依頼。前回からの共有

3. 新しい協働のプログラムを考えてみよう

(事務局)

今年度は前年度の最後にまとまったみなさんの合意に基づき、具体的にどんなプログラムが考えられるのか、区役所等から要望があった際に紹介できるよう、プログラム集を作ろうということになった。プログラム集を作るということについてはどうか。

これまでの講座集は団体紹介の面があったが、今回はプログラム内容がわかりやすいものとして、新しいものを生み出したい。

各団体が「市民に情報発信する重要性」を具体的にするのが講座の意義と考えている。

<意見交換>

(意見) プログラムを作ってどうなるのかが見えない。ネットワークを続けてどうなるのか、と一緒に。メリットがあることをやらないと、新しい団体も入ってこないし、出ていった団体も戻ってこない。活気がでない。

(意見) 大阪府が依然実施していた出前講座事業は、エントリーしていると事務局から次々と依頼がきて、設立当初の団体としては出ていく機会や知り合いになれる機会がもらえ、大変助かった。また、一堂に会する場があったが、たくさんの人につながることでできてメリットがあったので参加できた。

→(事務局) 大阪府の例から推測すると、たくさんの講座があったのではないかと思う。そのたくさん加減が魅力だったのではないかと思うので、今年度のネットワークでも、プログラム集を作ることを前提に、新しい団体にも声掛けし、呼びかけるといのはどうだろうか。

集まっていたら、趣旨を説明し協働の広がりを持たせたい。

(意見) その際気を付けたいのは、プログラム集を作ることが目的にならないように、声掛けしなければならないと思う。発信する必要があるのでプログラム集を作る、ということを伝えないと集まるだけになる。

(事務局) プログラム集は、昨年度の団体紹介のようなものではなく、どんなことができるか、プログラム内容から選べるような仕立てにしたいと思っている。また、単体の団体活動ではなく、ネットワークだからこそできる、協働したプログラムにしたい。

(意見) 例えば、昨今問題になっているマイクロプラスチック問題を扱うワークショップ・講座というストーリーがあればいいのではないか。こういうことを学ぶワークショップである、という出し方をして、プログラム自体が啓蒙になるようなものはどうか。

(意見) 内容で選ぶのもいいが、いっそのこと、価格から選べるようにするのも一考である。一体いくらかかるのか、そこも知りたいポイントではないかと思う。

(事務局) 何から検索するか、インデックスを何にするか、もう少し意見を聞いて作り始めたほうがいいと思うので、来月に別途会議の場を持ち、そのためだけを議論して決めたいと思う。いかがか。

全員賛成。

4. ECO 縁日について

ECO 縁日についての説明（各団体への参加呼びかけ、おおさか環境ネットワークとしての取組内容（エコスクエア 1 階パネルを活用した各団体紹介を兼ねたクイズラリー：昨年と同様）の周知）

(意見) 出展の際の原価設定として、500 円程度との記載があり、この金額が既成事実になってしまっている。木材関連など原価のかかるものもあるので、出展者ごとに金額を設定できることが望ましい。金額を高く設定したために客が来ない場合もあるだろうが、それを含めて自己責任でいいのではないか。

5. 各団体からの PR タイム

日本ベジタリアン協会よりセミナー等ご案内など